

第4回 横浜市港北区における区民文化センター基本構想検討委員会 会議録	
日 時	平成 28 年 1 月 28 日 (水) 午後 1 時 30 分～午後 4 時
開 催 場 所	港北区役所 4 階 特別会議室
出 席 者	<p>【委員】</p> <p>間瀬勝一委員長、山本貞副委員長、和泉利政委員、稲田奈緒美委員、恵志美奈子委員、大谷宗弘委員、岡本直美委員、木村江里委員、砂川由利子委員、砂田俊彦委員、平井誠二委員、村上テル子委員 (委員は五十音順)</p> <p>【事務局】</p> <p>港北区長、港北区副区長、港北区区政推進課長、港北区地域振興課長、文化観光局文化振興課長、有限会社空間創造研究所 ほか関係職員</p>
欠 席 者	なし
開 催 形 態	公開 (傍聴者 2 人)
議 題	<p>1. 第 3 回委員会会議録の確認について</p> <p>2. 区民文化センターニュース 第 4 号の発行について</p> <p>3. 答申 (案) に関する意見交換</p>
決 定 事 項	答申については、本日の議論をもとに事務局にて修正を行い、委員長一任のもと確定とする。
議 事	<p>開会</p> <p>(間瀬委員長) それでは、定刻となったので、ただいまより「第 4 回横浜市港北区における区民文化センター基本構想検討委員会」を始める。</p> <p>議事に入る前に、条例に基づく定足数の確認について事務局より報告をお願いしたい。</p> <p>(事務局) 「横浜市港北区における区民文化センター基本構想検討委員会条例」の第 6 条第 2 項に「委員会は、委員の半数以上の出席がなければ会議を開くことができない。」と定められている。本日の出席委員数は、現在定数 12 人のうち 12 人である。</p> <p>よって、出席委員数は半数以上で、本会が成立していることを報告する。</p> <p>(間瀬委員長) ただいま報告のとおり、条例に基づき委員会が成立していることが確認できたので議事に入る。</p>

1. 第3回委員会会議録の確認について

(事務局) 資料2について説明

(間瀬委員長) ただいまの説明について御異議・御質問等はないか。

(委員) 発声なし

(間瀬委員長) 各委員に承認を頂いたので、第3回会議録を確定とする。公開の手続きをお願いしたい。

2. 区民文化センターニュース 第4号の発行について

(事務局) 資料3について説明

(間瀬委員長) ただいまの説明について御異議・御質問等はないか。

(委員) 発声なし

(間瀬委員長) 区民文化センターニュース第4号を事務局説明のとおり確定とする。第4号発行の手続きをお願いしたい。

3. 答申(たたき台)に関する意見交換

(間瀬委員長) 前回は答申のたたき台を元に、皆様からご意見を伺った。本日は前回の議論に基づき、事務局が答申案を作成しているのので、それについて議論を行っていきたい。

まず、前回指摘があった基本理念について議論を行い、その後その他の部分についてご意見を伺いたい。

また、答申(案)の「はじめに」の部分に、僭越ながら委員長として文章を書かせて頂いた。この答申を最大限に反映させ、文化芸術を活かしたまちづくりとしての覚悟をもって施設整備を行っていただきたい、という趣旨の言葉を記載させていただいた。

まず、平井委員に、基本理念についての説明をお願いする。

(平井委員)	資料4中、基本理念修正の考え方について説明
(事務局)	事務局から修正点についての補足説明
(間瀬委員長)	特に意見がなさそうなので、答申(案)のその他の部分について議論を行う。事務局から答申(案)についての説明をお願いする。
(事務局)	資料4中、実現の方針・文化事業展開・施設運営・施設構成について説明
(山本委員)	よくまとまったと思う。2つ、3つ確認したいことがある。 以前に、練習室にグランドピアノを置けたらよいと申し上げたが、P6、練習室の説明に「必要に応じて」と書いてある。これはどのような意味合いか。
(事務局)	可能であればグランドピアノを置きたいが、予算との兼ね合いがある。ホールとリハーサル室には適切なピアノを配置することと考えると、もう一台グランドピアノが購入できるかは、現段階では判断ができない。
(山本委員)	どこかに鍵付きのロッカーをおいた方がよい。設計デザインが決まった後に置くのは良くないので、場所をあらかじめ考えておいたほうが良い。以前に申し上げた植栽については記載していただき、感謝を申し上げる。
(間瀬委員長)	ロッカーは、利用者としては隠れているほうが良いが、ある程度見えているほうが管理上は良い。例えば、杉田劇場はロッカールームの壁面を半透明のガラスにして、受付カウンターから人影が分かるようにしている。
(恵志委員)	P2の図の「学校」は施設であり他とカテゴリーが違う。歴史、文化と出てくるならば、教育という言葉が適切ではないか。

	<p>P3、1－(4)に連携する場所として、「区内の文化施設や福祉施設、図書館、学校、自治会・町内会、商店街」などと書いてあるのであれば、図の下に書いてあるものはこと対応していたほうが適切ではないか。また、この図では、つながる場が下で、創造する場が上を示している。文字が横に並ぶのではなく、配置を変えたほうがわかりやすい。</p> <p>私見ではあるが、基本理念のハートマークは、公的なものにハートマークをつけるということに関してしっかりこない。</p> <p>P3の「2 自主企画事業展開の例」で、「(2)参加型事業」と「(4)普及事業」の区分けが分かりにくい。普及事業が外に出かけるという意味なのか。普及事業も参加型事業の一種なので、一緒に良いのではないか。参加型事業が、演劇やミュージカルなどの作品を創るということであればわかるが、例で各種ワークショップが書いてあるので、区分けがどうなっているのか。</p> <p>また、地域連携事業は、P3の「1(4)地域連携・地域資源の活用」に該当する。自主企画事業としてよりも、果たす役割を踏まえた上で事業展開としてはこのようなことが考えられる、という形の書き方でいいのではないか。構成を整理し、「果たす役割に基づいた事業展開としてこのようなことを考えている」という形にしたほうが伝わりやすいかと思う。</p> <p>(事務局) 事務局で整理し、ご指摘のように修正させていただきたい。</p> <p>(稲田委員) 私もハートが気になった。他にいい表現がないというのもわかるが、ピンク色のハートは気になる。 これは、区民の方が目にできるように配布するのか。</p> <p>(事務局) 概要版という形で配布する。</p> <p>(稲田委員) 基本理念の説明文の二段目の中で「アート (ART)」「ハート (HEART)」などとカッコで補足すると良い。読んでい</p>
--	--

	<p>の方がすぐわかるようにするためには、流れがわかる文章の書き方にしたほうが良いと思う。</p> <p>イメージ図は、恵志委員のご指摘のように「創造する場」「つながる場」の位置を修正していただくとよい。</p> <p>単語のレベルを揃えること、例えば「福祉」や「歴史」といった概念なのか、「学校」などの場所なのかを全体的に揃えて書かれるとよりわかりやすいかと思う。</p> <p>わかりやすい文章を中心に考えると、P3の「1（4）地域連携・地域資源の活用」の「地域資源」が何なのか、一般の方にはわかりにくいと思った。何を示すのか、文章に書かれていると分かりやすい。地域資源とは具体的には何を指しているか。</p> <p>(事務局) すでに地域にある文化活動や人材、歴史的資源や史跡などが含まれている。</p> <p>(稲田委員) そのようなことが具体的に書かれていると良い。活動している「人」と、歴史的などの「事象」という両方があるのだと書いてくれると良いかと思う。</p> <p> P4に「運営体制を構築します」とあるが、「運営体制を作ります」で良いのではないか。</p> <p> P5に「非日常を感じられる雰囲気づくり」とあるが、「非日常」としてしまってよいのか。劇場に行くことは非日常を体験しに行くことだが、劇場体験と区民文化センターは少し性質が違うのではないか。使うとしても「非日常的なにぎわいを」「非日常的なアーティストックな～」 「創造を刺激する～」など言い換えるとわかりやすいかと思う。</p> <p> 単語のレベルを揃えるという意味では、P5、施設内容のホール付随機能に「音楽、演劇、ダンス、ミュージカル、バレエ、舞踊」とあるが、舞踊のなかにダンスやバレエも含まれる。日本舞踊を指しているのであれば、そう書くとともに、伝統芸能も加えると、他のジャンルの方も使いやすいのではないか。今のままでは洋物に偏っているイメージがある。同じことが、P6の音楽ルームの部分にも言える。</p>
--	---

	<p>(間瀬委員長) 音楽ルームの部分については、床材のことを指しているの、おそらくバレエやダンスのことだろう。</p> <p>(砂田委員) 今お二人がおっしゃったことは同感する。非日常という言葉自体が、聞いた人は驚くかもしれない。 舞台部分の「可動式音響反射板」とはどのようなものを想定されているか。</p> <p>(間瀬委員長) 多目的なので、普段は幕類が下がっている舞台空間であっても、音楽公演の際は天井、両サイド、背面が囲われる可動型の反射板を設置するということである。私の知っている範囲だと、磯子公会堂が同じような様式。囲い方は空間の使い方によって設計者が工夫をされるので多様な方式がある。</p> <p>(砂田委員) また、バリアフリーと客席段床の兼ね合いはどうか。設計者が考えるとは思いますが、緩やかな段床式とはどのような感じになるのか。</p> <p>(間瀬委員長) 栄区民文化センターリリスのホールの客席は急勾配になっている。あの勾配では健常者の方も怖いので、もう少し緩くなるだろう。ただし緩くすることにより、役者と客席との関係が見にくい場所が出てくる。そのバランスの問題。 ユニバーサルデザインについては、障害者差別解消法という、障害がある方などへの対応を求める法律が4月から全面施行される。それを受け、建築基準法も対応をする。例えば、車いすの場所を一箇所に固定せずに、可能な限り選択できるようにすること、などの方針が示される。おそらく、設計者はその方針に基づいた設計を考えるだろう。</p> <p>(砂田委員) 階段でなくスロープでは難しいのか。</p> <p>(間瀬委員長) スロープは角度の規定があるので距離が必要になる。</p>
--	--

	<p>前方5～6列をスロープにする例はある。客席からの視線・見え方の問題である。</p> <p>(砂田委員) 音楽ルーム(リハーサル室)の部分だが、「舞台面を想定しての練習」というのと、「100人程度の練習」という書き方があるが、100人が立って練習するのか、座って練習するのか。具体的に言うとm²ではどの程度を考えているのか。</p> <p>諸室の広さにより、できる内容が大きく違ってくる。私のこれまでの発言意図としては、フルオーケストラや吹奏楽団、ミュージカル等練習ができることを想定してもよいのでは、という意味合いで広さについて申し上げてきた。</p> <p>(事務局) 区民文化センターの標準仕様は100m²程度だが、それ以上から、200m²までは必要ないのでは、と考えている。</p> <p>(砂田委員) 100m²では狭い。150～200m²あれば十分。ここに数字は書けないかもしれないが、広い音楽ルームを整備することを期待する。</p> <p>(間瀬委員長) 「舞台面を想定して」という書き方なのは、舞台のアクティビティエリアがどのくらいのスペースになるのかまだ見えないからである。舞台でのリハーサルができるということは、舞台面プラス若干の広さがあれば、ホールを使わなくとも練習ができる。そういったイメージでご理解いただけるかと思う。</p> <p>(村上委員) 利用者として来た時の視点として、ロビーに休む椅子が少ない。また、ロビーから客席までの動線に階段の登り降りが多いホールが多い。ロビーから直接客席に入れるような設計にすると、全体として狭くなるのか。</p> <p>(間瀬委員長) 面積の中での取り合いにはなるが、バリアフリー法の改正では車いすで舞台に登れることまで求められる。</p>
--	---

	<p>(事務局) その他の留意事項の点に、椅子の点は付け加えさせていただきます。</p> <p>(岡本委員) ミュージカルには小学生から70代くらいまでが参加しているが、「つながる」ということが今の時代はできていないと感じる。小学生は小学生でかたまり、大人は子どもの面倒をみたり教えたりしないというのを、年々感じるようになってきた。「つながる場」として大人と子供がつながれる場になるとよい。</p> <p>(木村委員) 「非日常」という点について、区民文化センターは、文化を日常に近づけるという目的があると思う。いつもと違う空間には来るが、「文化的な空間や場所は日常と近い」という意味で表現されたほうがいいのではないか。</p> <p> ハートのモチーフは、私自身は抵抗がないが、戸塚にある市の男女共同参画センターのロゴにも使われている。他の施設のマークに似ている、ということも気をつけたほうがよい。</p> <p> 先日、新しいホールで客席が完成してから、見きれで舞台の半分が見えない客席があり、修正が入るというニュースがあった。見えない席がおおく、実際に使える席数は定員数よりも少ないということもある。それもシミュレーションしたほうが失敗は無いのではないか。</p> <p>(間瀬委員長) 客席数とともにサイトラインへの考慮が必要となる。客席数を確保するために、客席部分を舞台間口より広く配置している施設もある。区民文化センターの規模では、そうならず収まるのではないかと思っている。</p> <p>(砂田委員) 例えばサントリーホールは、サイドの席は手前が見えない席がある。それはそこを覚悟で座る。みなとみらいホールも見切り席がある。それは割りきってチケットを買っている。やむを得ずという事情はあるので、そのことを是正するために急勾配になったり、ホールの形自体が変わったりすることのないようにしたほうがよい。</p>
--	---

	<p>(砂川委員) ハートをピンクにするのはもう一度考えてほしい。</p> <p>「非日常」については、例えば建物を見ること自体や、植栽のあふれる空間が非日常的かもしれない、それもよいと思うが、区民文化センターに日常的に来てほしいという気持ちを皆さんお持ちだと思ふ。ホールの中に入ったら非日常になるが、そこまでは親しみやすい雰囲気を作っていきたい。</p> <p>グランドピアノはアップライトとはまったく違うので、可能ならば小さい練習室にもほしい。リハーサルに使うこともあるから。</p> <p>中・小の練習室の想定人数は何人程度か。</p> <p>(事務局) 中は10人程度、小は5～6人程度が標準である。今は中規模15人程度が1部屋と小規模が1部屋というイメージでいる。</p> <p>(砂川委員) 5～6人を対象にした練習利用のニーズはあるのか。地域の民間のスタジオを使っていたと、という議論もあった。中規模20名程度、小規模10～15名程度が使い勝手が良いのではないかと。合唱も10名程度で活動している団体もある。</p> <p>(事務局) 区民文化センターの標準では小3室だが、中規模程度の練習も想定して、中規模1室、小規模1室としている。</p> <p>(砂田委員) 小さい室も需要はあるだろう。例えば、みなとみらいホールの上階の練習室など稼働率が高い。</p> <p>(間瀬委員長) 区民文化センターでは、2人で詩吟の稽古や3人でウクレレの練習などの需要がある。中には、小練習室のドラムセットを片付けて使いたいということもある。数人での利用、というニーズは大変多く見込まれる。</p> <p>バンド練習をどうするかは最終的に詰めていくと思うが、それは備品をどう買うかかということになる。パート練習などもあるので、数人の利用のニーズはある。</p>
--	--

	<p>(平井委員) 先ほど説明しきれなかったが、実はピンク色のハートではなく、桜など植物の花びらをイメージしたもので、ひとりひとりを一片の花びらに例えて、集まって花になり木になるように、団体となり交流を深めていくという思いで残している。</p> <p>事務局の説明でもあったが、区民の関心は高い。私にも期待しているという声や要望が寄せられている。今日も音楽活動、ジャズなどをされてきた方から、ホールの音響について、「客席に人がいない空の状態ではなく、満席状態で音響が良くなる設計をしてほしい。」と言われた。</p> <p>(間瀬委員長) ホールの残響や響きは客席などの容積で決まる。席数が小さいのでみなとみらいホールのような響きは物理的には難しい。また、電気音響で残響を作り出す等の工夫をしているホールもある。客席が固定段床の跳ね上げ式だと、椅子の裏面が吸音になっており、ある程度の吸音ができる。残響をどの程度、という具体は書かれていないが、「音楽や演劇でも使えるように」、とは明記している。ある程度の残響は基本設計の中で示されるだろう。</p> <p>(大谷委員) センターに対する区民の期待は大きい。しかし予算、面積が限られている。その中であらゆるジャンルを問題なく利用できるようにし、利用度をどう高めるかが重要。夢を実現して、どう有効活用するか。</p> <p>(和泉委員) これまでである中で、一番良い区文ができるのではないかと期待している。</p> <p>(恵志委員) P4の「V施設運営」1のタイトルを変えた方が良い。V全体が、「施設運営の基本的な考え方」で、1が「区民が主体的に関わっていく仕組みを構築する」、2が「管理運営主体と専門人材の配置」ということかと思う。</p> <p>(事務局) 修正させていただく。</p> <p>(木村委員) この中に触れられていないが、防犯について、先日主催</p>
--	--

	<p>したイベントの際にダンサーが盗撮されるという事件があった。ホールの方も対応してくれたが、施設側も警備に対する意識が低い。警備や防犯、防災への備えなど書かれていないようなので、しっかり考えてほしい。</p> <p>(間瀬委員長) 日常的にホールを運営していると思うことだが、事務室からは、お客様なのかそうでないのかわからない。ホール側では管理しにくいので、主催者が管理するしかない。だが、主催者が全員ホールの中に入ってしまった時などもあり、主催者にどこまでやっていただき、ホール側がどこまで対応するのかは、今全国でも課題になっている部分でもある。東京芸術劇場、神奈川芸術劇場などは誰でも入れる広いエントランスロビーに、必ず一人警備員が立っている。それだけでも抑止力になる。警備については、経費の問題と、誰でも来やすい敷居の低さと反する、という課題がある。</p> <p>(木村委員) 港北公会堂は、ロビーが自由空間で誰もが入れる。トイレを開放しているため、催し物をしていてもトイレの利用者が来ることがあり断れない。次回のイベントからは外部の警備をお願いしようと話している。</p> <p>(砂川委員) みなとみらいホールは、ホール付きのレセプションスタッフがいて、いつも来る人を見ている。以前に演奏会のお手伝いをした際に、無料公演だったのでホームレスらしき人がいらして対応に困ったが、ホールの方が「この方は毎回聴きにくる方なので大丈夫」と言ってくださり、客席に案内したことがある。ホールの様子を把握している専門の方がいらっしゃれば、主催者は安心できる。</p> <p>(砂川委員) 図書館も夏などは涼しいからと入ってきて断れないという状況がある。</p> <p>(山本委員) 美術館も同じである。監視員に与える権限や判断の基準をどうするかという問題もある。</p>
--	--

	<p>(間瀬委員長) 横浜市は、基本的には来場者を拒否しない方針にしている。</p> <p>(稲田委員) 防災に関しては触れてよいのではないか。今は改修されたが、東日本大震災では、ミュージア川崎でホール天井の仕上げ材が崩落したという件もあった。</p> <p>劇場にいる時に地震が来たらどうするか、というのはいつも気になっている。災害時の安全についてもある程度保証されている、ということが書かれていてもよい。</p> <p>基本のスペックに関わってくるが、東日本大震災の際は、しばらくのあいだホール施設に被災者を受け入れた、という事例もあった。有事の際に、区民文化センターが区民の情報発信の場になるということがあると、身近な感覚が違うかと思う。</p> <p>災害時に観客や来館者にどうアナウンスしていくか。駅にも近く、災害時に避難に来る場になるだろう。商業施設との連携も求められる。</p> <p>(間瀬委員長) 天井の問題等は建築基準法が修正されたので、問題無いただろうと思う。</p> <p>商業施設との合築なので、どう連携をするのか。複合施設の場合、全施設一体の防災センターができ、ホールは親となる中央監視から、子機となるコントロール盤が入るといことが多い。また、運営面では消防法などに基づいた訓練が義務付けられている。防災については留意事項で触れておいても良い。</p> <p>(平井委員) 帰宅困難者の受け入れはどう考えるか。</p> <p>(事務局) 市の防災計画の中で決めていく。</p> <p>(間瀬委員長) 私が以前勤務していた逗子文化プラザホールでは、施設のロビーまでは受け入れたが、ホール内は危険が伴うために客席には入れなかった。</p> <p>東日本大震災の時、東京文化会館は上野駅がシャットダウンしたのでピーク時で2万人が押し寄せたために、</p>
--	--

	<p>仕方なく大・小ホールに入れたと聞いた。市の防災計画の中で一時避難場所にするかの検討をこれからして下さると思う。</p> <p>(平井委員) 区民文化センターは新駅と連絡する予定なので交通が麻痺すると受けいれざるを得なくなるだろう。</p> <p>(間瀬委員長) 一度休憩を挟み、後半に皆様から一言ずつお伺いしたい。</p> <p>(休憩)</p> <p>(間瀬委員長) 本委員会は本日で最終日となるため、委員会の結びとして、新しい区民文化センターに対しての皆さんの思いや委員会の感想などを一言いただけたらと思う。</p> <p>(和泉委員) 我が家は港北公会堂から歩ける位置にあり、よく利用させていただいた。綱島にできると遠くなるが、綱島を散策しながら足を運びたいと思う。</p> <p>(大谷委員) 公共施設と商業施設、共同住宅と一体型のホールというのは、港北区では初めての施設となる。共同住宅のあり方、商業施設のあり方、区民文化センター、それらが調和できるような設計が肝であるので、十分配慮していただきたい。良い例とされる施設となることを期待する。</p> <p>(平井委員) 初めてこうした委員会に関わることができ、区民文化センターの完成前から、既に愛着が湧いている。</p> <p>区民が主体的に活動する場として位置づけられるとのことなので、そこに対する期待も大きい。完成した建物が将来どれだけ区民のために役立つ施設になるかは、愛着を持った区民が育てていくことで実現するだろう。そういう施設にしていけるといい。</p> <p>複合施設の一部として整備されるので、この検討委員会と並行しながら、再開発の検討も進んでいるだろう。そのような場で、この答申が活用され、地域の中で区民文化</p>
--	--

	<p>センターが位置づけられていくと素晴らしいのではないか。</p>
(砂川委員)	<p>今の活動では練習会場が決まらず苦勞している。区民文化センターが完成したら、是非練習利用したい。駅から近いのは、メリットであると捉えている。</p>
(木村委員)	<p>検討委員会は今回で終了だが、区民文化センターの運営面が動き始めるころに区民が参加できる機会をつくり、そこで区民の企画が取り入れられるといったことがあると良い。そのように関わることで、初めて親しみやすい施設になっていくだろう。私自身も利用者として色々やりたいことがあり、今から楽しみである。</p>
(岡本委員)	<p>私達の団体が利用するにはホール規模が小さいかもしれないが、リハーサル室は使うようにしたい。</p> <p>運営方法が一番の問題である。出来上がったから終わり、と指定管理者に任せきりにするのではなく、区民も運営に関われるような会などができると良い。</p>
(村上委員)	<p>これまで、発表する場所が無く、使い勝手の悪い施設も多い中、場所を探して活動を続けてきたので、区民文化センターに対する期待も大きい。今は古典に親しむ機会が少なくなってきたおり、知らない人も大勢いる。どこで何をやっているのか知らない人も多いため、近い場で活動していることを知ってもらい、少しでも古典文化や着物の良さをお分かりいただきたい。</p>
(砂田委員)	<p>横浜市の中で、区民文化センターとしては最後の方に建てられる。これまでに建設された区民文化センターの経験を活かし、使いやすい施設となることを期待している。港北区民交響楽団は、30年前に各区にアマチュアオーケストラをつくるという流れの中で結成された。その中でも、一番良く育ったのが港北区だと思う。港北区では吹奏楽なども盛んである。区民文化センターを活動の拠点として、さらに飛躍したい。また、新しい活動が発展し、</p>

	<p>港北区の文化度が向上するように期待する。</p> <p>(稲田委員) 本委員会にて、施設整備の基本段階から区民が参加して活発な議論をしている。またその場に区長が毎回出席しているというのが素晴らしい。是非実現されるよう、今後も話し合いが続くことを祈っている。</p> <p>今、安かろう悪かろうということが社会問題になっている。十分な予算を確保して整備にあたっていただきたい。ただ良いだけでなく、まずは安全な施設であることが重要である。区民が安全に文化を享受できるように配慮していただきたい。</p> <p>最近、イギリスの文化政策では「アート・フォー・オール」などという。いままで観客をいかに増やすかだったが、オーディエンス<観客>ではなく、パーティシパント<参加者>をいかに増やすかが大切と言われている。一方からのアプローチではなく、「オール」、「エブリワン」ということが、ソーシャルインクルージョン、社会的包摂へと繋がっていく。</p> <p>ただ数を増やすのではなくレベルを上げることも重要である。文化的なリテラシーがわかる区民を増やしていくということ。単純に「観てよかった」ではなく、観たことで文化芸術に対する自分の理解度があがり、それによって他者とのコミュニケーションができるなど、文化によって人と人、社会と社会のレベルが上がって行けるホールにしていだけたらと思う。</p> <p>(恵志委員) この委員会に参加したことで、今働いている世田谷パブリックシアターも、地域の人に関わってきてできた施設だと改めて感じている。</p> <p>実際に事業を運営する上で、当初の思いと実際をどう繋いでいけるかが重要だと思っている。区民文化センターの今後の場合では、指定管理者をどう募集するか、どのような運営をしていくのか、ということになる。これからそのようなことがスタートすると思うので、楽しみにしている。</p>
--	---

(山本委員) 三鷹駅前の多目的ビルの上に、美術館が入っているのをご存知だろうか。たまたま、上に美術館があると書いてある表示を見つけたので行ってみた。商業ビルの上層にあるため、セールなどの雰囲気の中なかに美術館に向かうことになり、日常と近すぎている部分があると感じた。あまりにも商業施設の中にこういう施設を入れ込んでしまうのも、雰囲気や意識の面で考える部分があり、日常と改まった公的施設をどう線引くのが難しいと感じた。また、三鷹の場合、ビルの入り口に美術館の表示が少なく、わかりづらかった。そこに美術館がある、とわからしめるアプローチや誘導方法をしっかりと考える必要がある。

日常と非日常では、日常のほうが施設には入りやすい。六本木に国立新美術館ができた。それまでは美術館といえば上野の美術館であり、上野駅から美術館に向かう間の公園を通ると、どこかで聖地に向かうような気持ちがあった。

良くも悪くも、都心に近づいてきた国立新美術館と、聖地的な森の中にある美術館でコントラストが生まれた。今は、新国立美術館は人が入っているが、上野の美術館は苦戦しているようである。日常と非日常のバランスを上手に使わないと難しい。

ピアノについて、私は大倉山記念館の隣に居住しているが、大倉山のホールは演奏者が観客の間を通り抜けて舞台上に上る。そのようなホールでもグランドピアノがある。グランドピアノはホールの象徴のひとつでもあるので、配慮していただき、演奏がそこにあるという感じにしていればと思う。音響だけでなく、音源にも配慮してほしい。

(間瀬委員長) これまで区民文化センター5館の館長を務めてきたが、当初は日常と区民文化センターが近すぎるのに戸惑った。神奈川県立音楽堂や青少年センターは、駅から坂を上っていくことで期待が高まる。区民文化センターにいて、区民が気楽にふらっと来られる施設を目指しているということに気が付いた。劇場・音楽堂のイメージということは、周辺の設えからも無理だと感じた。やはり、今まで色々な所でつくられた区民文化センターの良い点、悪

	<p>い点を参考にして、本委員会の意見を設計者に伝え議論しながら、これまでの区文と同じミスのないように設計を進めていただきたい。</p> <p>区民文化センターは指定管理者制度の導入が前提であり、仕様書の書き方が重要である。市が手を出せるのは選定委員を選ぶことと、指定管理者選定の要項づくりまでである。また、指定管理者に運営になってからも、定期的に区の方が直接、この4回の議論をもとに、見守っていただきたい。</p> <p>旭区民文化センターに着任したときの私のキャッチフレーズは「おらがむらのサンハート」だった。二俣川の方々が「うちにはサンハートがある」と自慢ができるものにするということを目指して活動した。杉田劇場でも「敷居が低い文化施設」ということを徹底的に目指した。それが良い、悪いということではなく、利用者や地域の皆さんが、「港北らしく良い」と思っていただけの運営をしていたらと思う。</p> <p>今後のまとめ方などについて事務局より説明をお願いする。</p> <p>(事務局) 基本理念については、休憩時間に複数の委員と協議し、「ハートでつながる わたしたちのまち」と、ハートをカタカナに、字の色は黒一色とする。「ハートの中にアートがある」というのは基本理念の下の文章の中で「ハート(HEART)」、「アート(ART)」と表記することで表現したい。</p> <p>(間瀬委員長) ただいまの基本理念の案についていかがか。</p> <p>(委員) 発声なし</p> <p>(間瀬委員長) 基本理念については提案のとおりとする。 答申のまとめ方について説明をお願いしたい。</p> <p>(事務局) 本日の各委員の御意見を踏まえて、答申を修正し確定させることとなるが、最終的な答申の確認は委員長一任でよいか。</p>
--	---

	<p>(間瀬委員長) ただいまの事務局提案についていかがか。</p> <p>(委員) 「異議なし」と呼ぶ者あり</p> <p>(間瀬委員長) 答申の確定について、御提案のとおりとする。 今後の流れについて事務局より説明をお願いしたい。</p> <p>(事務局) 答申の公表など今後の流れについて説明</p> <p>(間瀬委員長) 今後の流れについてはただいま事務局から説明のあった通りとする。 これで本委員会の審議事項は全て終了した。</p> <p>(事務局) 最後に港北区長より御挨拶申し上げる。</p> <p>(港北区長) 昨年8月から、4回という限られた時間ではあったが、それぞれの立場から具体的なご意見やご指摘を多くいただいた。感謝申し上げたい。整備予定地は、主に商業、業務、住居系の都市機能を強化するまちづくりをしている。その中でも、区民文化センターは、人の心の豊かにし潤いと創造性をもたらす、まさにハートとなる施設になると受け止めている。答申や議事録を受け止め、よい施設を整備したい。これからもご支援をお願いしたい。</p> <p>閉会</p>
資料 ・ 特記事項	<p>資料1 第4回横浜市港北区における区民文化センター基本構想検討委員会 席次表</p> <p>資料2 第3回横浜市港北区における区民文化センター基本構想検討委員会 会議録</p> <p>資料3 港北区 区民文化センターニュース第4号 (案)</p> <p>資料4 横浜市港北区における区民文化センター基本構想 答申 (案)</p> <p>2 特記事項 なし</p>